

斷簡三片

フライブルグにて 伊藤 猷典

コーン教授の近況

既にもう御承知でせうが、コーン教授には昨年 *Befreien und Binden* と題する教育に關する論文集を出版されてゐます。「教育に於ける解放と拘束」

「近代文化の生命問題」「遺傳學と教育學」「道德教授と神の信仰」其他六篇を集めたものです。

Geist der Erziehung も第二版に於て、教育の態度につき増訂されたさうです。

教育の講義の内容は右二書に現はれた思想と大體に於て變りないと先生自身も申され（小生の問

に對して）てゐますが、しかし聽講してゐると、日本にゐるとき著書について成程と思つてゐた部分が一層價値あるやうに思はれ、漫然と讀過した部分が生き返るといふやうな感じを起します。

教授の著書の中教育に關するものには猶 *Die einbacher* 氏との共著になる *Untersuchungen über Geschlechts-Alters- und Begabungsunterschiede bei Schilern* といふのがあります。

教授は極めて穩健な篤學の方のやうに見受けられますが、齡既に還暦を越へて未だ正教授でないことを知り獨逸に於ける學者の行路難を切實に感

せさせられました。

現象學と教育學

旗幟鮮明に現象學の立場から教育學を説いた人が有るか否か、如何なる文献が存するかは、自分の知りたいと思ふ一事項であつたのでフツセル教授には無論のこと、コーン教授の下に今猶研究中の教育學專攻のドクトル・ロンバツハ氏にも訊しましたが否定の答しか得られませんでした。目下のところ自分で建設するの外道はないやうです。勿論フツセルの説を引用したもの、又はそれとなく取入れて自家藥籠中のものとしてゐる學者も見當らないではないが。

根本の立場は兎も角として、フツセルのなせる緻密な認識作用の分析や、先輩から聞き囁つたハ

イデガーの説の一部が自分には教授論の建設に重要なヒントを與へるやうに思はれるので今暫くこの方面を調べて見たいと思つてゐます。

ヘーベルリン教授についての正誤

今から五年前、雜誌 Deutsche Schule XXVII.

1923 März, s. 129. に於て同教授の亡くなつてゐられることを知り、平素より私淑してゐた自分は本誌上に同教授の訃を報したのであつたが、其後同教授の著書が二三現れるので不思議に思ひ、ミネルバを調べて見ると嚴として記載されてある。訃音は自分の讀誤りでなかつたかど前記の雜誌を取出して讀直し、且人に訊しても矢張り亡くなられたやうに記載されてある。この謎を解決するため、豫め日を約し六月二十六日態々バーゼル迄行

き同教授を訪れ會談約二時間大要次のことを知り
ました。

前記の雜誌に記載してあつた同教授の訃は全く
誤報であつて、一九二二年にバーゼル大學教授ブ
ラウン (Braun) 氏が死し、その後任として當時
ベルン大學教授であつたヘーベルリン教授が轉任
され、その後へ、Dr. Sganzi 氏が赴任したとい
ふのが事實であるとのこと、さうしてヘーベルリ
ン教授は目下部長としても活動してゐられます。

同教授には數多の著書があります。
心理學の方法論を論じたものに

Der Gegenstand der Psychologie 1921.

教育的心理學を論じたものに

Kinderfehler als Hemmung des Lebens.

Eltern und Kinder の二種あり、(前者はローン

教授も大層推獎されてゐました)。

教育の基本を論じたものが

Das Ziel der Erziehung であり(初版は説があまり
嚴にすぎたので第二版に於て大部分改められた
由)その歸結をのべたものが

Wege und Irrwege der Erziehung であり。

基本的心理學を論じたものに

Der Geist und die Triebe あり、その補足として

Der Charakter あり(この二書も教育者の必讀書

のやうに自分には思はれます)。形面上學を論じ
たものに

Das Geheimnis der Wirklichkeit あり

倫理學の基礎づけをなしたものが

Das Gute あり。

猶今後宗教心理學、美學、論理學をものし、更

に Methodologie der Wissenschaften をものし、以て一般の學の方法を論ずる豫定であるとのことであつた。「先生には諸學の方法論としての Wissenschaft und Philosophie があつたではありませんか」と反問したら、それは若い時に書いたのだから今では充分でないを謙遜されてゐました。

猶教授の既刊の書に

Die Grundfrage der Philosophie.

Der Beruf der Psychologie.

Symbol in der Psychologie und Symbol in der

Kunst.

Pestalozzi in seinen Briefen.

Herbert Spencer's Grundlagen der Philosophie. の

諸種がある。

談が現代の教育思潮に轉じた時、多く話された

中に、亞米利加では實驗的研究が多くなされてゐるが、その多くは人間生活の周邊的の問題に關してゐる憾がある。自分はこれに反し、感情意志の問題、人格の中心問題を取扱つたと特に力を入れて語られた時、得意の色が眉宇に現れてゐました、因に教授は一九〇九—一四年迄バーゼル大學の私講師、一九一四—二二年迄ベルン大學の教授、二二年よりバーゼル大學の正教授を務めてゐられるのださうです。

教授の姓 Herberlin はヘーベルリンと讀むのが正しいのださうです。

教授の宅はバーゼル市並に北獨逸のライン平原を俯瞰しうる高燥の地に占められ、應接室内には御令室の自ら描かれた繪が澤山掲げられてゐます談が終つた頃この日特に小生のため庭園に席を設

け知人五名(内四名は婦人)を招かれ、婦人、令嬢方を集めて茶をすゝめて下さつたには可なり恐縮、

否恐怖を感じました。こんなに婦人が多數列席さ

れてゐるなら洒落の一つも言ひたいのであるが洒

落どころか眞面目な話すら碌に出来ず、教授から

「バーゼル訛が多いので御解り難いでせう」と宥

められ 多少は救はれたものゝ、教授以外の人と

は殆ど話が出来なかつたので汽車の時間の近づい

たのを幸に急遽別れをつけて逃げて來ました。平

素から別して外國語に於ては専門以外の書には餘

り眼を通してゐなかつた自分はこの日靚面に業果

を感じ、花月草紙にあつたうつばりの上をも歩む

べし云々の句が恰も啓示のやうに特に強く腦裡に

浮出しました。(七月十一日)

景 報

左右田博士の逝去

去八月十一日本會會員であり又本學部講師であつた左右田博士の訃を傳ふ。氏の深き思索と豊かなる學殖とは久しく我等の敬慕措く能はざるところであつた。然るに天君に齡を假さずして未だ知命に達せざるに既に白玉樓中の人と成り給ふこと氏がため又我學界のために惜みても餘りあることである。曩に我が誌上に於いて西田博士に寄せられたる論文未だ我等が記憶に新しきに今すでにこの惻しきを見る。朔風寥々徒らに我に辛きを想ふ。一言蕪辭を以て謹みて博士の靈を弔ふ。